

学校だより

霜月（しもつき）

令和2年11月10日 今帰仁小学校

2020. November .Tenth (10th)

文責：校長 屋良 篤

Number 39

6年生 平和学習

先週の水曜日に終日かけて6年生の平和学習として南城市の系数壕と糸満市の平和祈念資料館へ行きました。

【系数壕】

系数壕では各クラスに分かれて壕（アブリラガマ）に入り、沖縄戦当時の住民の追体験をしました。ガイドさんから聞く壕の中の生活は言葉にならないほどつらく生きた心地など全くしないような生活だったことをひしひしと感じたことと思います。寝床と食べるころ、排せつ場所が一緒になった壕、そして目の前の指先一本見えない真っ暗闇の壕の中で一日中生活しなければなりません。更に負傷者やのどが渴いた人のうなり声が響き、まさに地獄のありさまだったということです。

戦争は二度と絶対に起こしてはならない。今後は、だれもが幸せを願い、世界の恒久平和をつかっていかなければなりません。そのためは、今何ができるか、何をすべきなのか6年生一人一人の心の中に秘めたものを持っている（感じている）と思います。

家族を大切に、友達を大切に、すべての人を大切にする心。また、ペットやそれ以外の動物たちも含め、生き物に対する気持ちをこれからも持ち続けていきたいですね。

【平和の礎】

平和の礎では、今帰仁村の戦争犠牲者の方々の名前を真っ先に探していました。自分の曾祖父・曾祖母や親せきの方々の名前を探して、先生や友達に話している姿が多くみられました。校長先生の祖父も戦争犠牲者の一人です。名前を見るとその度に「生きていてくれたら」と思います。

戦争は百害あって一利なしです。人々の心を傷つけるだけです。

改めて平和の尊さを感じます。

【平和祈念資料館】

最後は、平和祈念資料館での学習です。中に入ると子ども達は、最初のブースから熱心に映像や証言資料を見ていました。時間が足りないほどに丁寧に読む姿はとても感心しました。今後の学習に生かすためにメモを取りながら一生懸命に戦争のことや復帰直後のアメリカ統治下の沖縄の事を学んでいたと思います。

戦争の遺品や本当の映像を見て、まさに生き地獄だったことは全ての子どもが感じたことでしょう。

戦争は、幼い子供からお年寄りまで、何の罪もない人を無差別に犠牲にしています。沖縄だけでなく、広島や長崎、日本軍の占領下にあった南洋諸島には、かつての傷跡が生々しく残っています。その傷は、今後二度と戦争を起こしてはならないという証となっていると思います。

今回の校外学習で学んだことを将来も大切にしてほしいと願っています。

